令和 7 年度　東京都内湾水生生物調査　8 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 7 年 8 月 8 日に稚魚調査を実施した。天気は概ね晴れで、気温は 30.9～32.8℃であった。調査地点の風向は東寄りまたは南で、風速は 1.5～4.4 m/s であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 33 分、満潮は 17 時 33 分であった（気象庁のデータ）。お台場海浜公園及び森ヶ崎の鼻では赤潮が発生している状況であった。

全調査地点においてビリンゴ、マハゼ等のハゼ科魚類が出現したほか、森ヶ崎の鼻ではトウゴロウイワシが多数出現した。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
調査時刻	8:26 – 9:45	10:14 – 11:25	12:00 – 13:24
水温(℃)	28.5	32.2	32.1
塩分(－)	22.7	16.0	15.9
透視度(cm)	27.0	27.0	14.5
DO(mg/L)	9.46	8.06	6.27
DO 飽和度(%)	138.9	117.6	93.9
波浪(m)	<0.2	<0.2	<0.2
pH(－)	8.50	7.81	8.11
水の臭気	なし	なし	なし
備考	なし	なし	なし

●主な出現種等（速報のため種名は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚類（多い順*）	ビリンゴ（c）	トウゴロウイワシ（m）	ビリンゴ（c）
	マハゼ（+）	ビリンゴ（c）	マハゼ（+）
	クロサギ属（+）	ウグイ属（c）	ボラ（r）
	トウゴロウイワシ（+）	ギマ（r）	コトヒキ（r）
		マハゼ（r）	メナダ（r）
魚類以外	シラタエビ（c）	シラタエビ（r）	シラタエビ（r）
	アミ科（c）	ユビナガスジエビ（r）	ユビナガスジエビ（r）
			ガザミ（r）
備考	なし	なし	なし

*）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G：1000 個体以上、m：100～1000 個体未満、c：20～100 個体未満、+：5～20 個体未満、r：5 個体未満

お台場海浜公園　採取試料

調査地点の様子

調査の様子

水際から数mで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

トウゴロウイワシ

イワシよりもボラに近い仲間。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸で普通に見られる。産卵期は夏で、秋にかけて仔魚が東京湾全域に出現する。

クロサギ属

砂底域に生息する。前方に突出させた口を砂底に突っ込み、多毛類や藻類等を食べる。仔稚魚の群れは漁港でも確認されるが、東京湾奥ではあまり見られない。

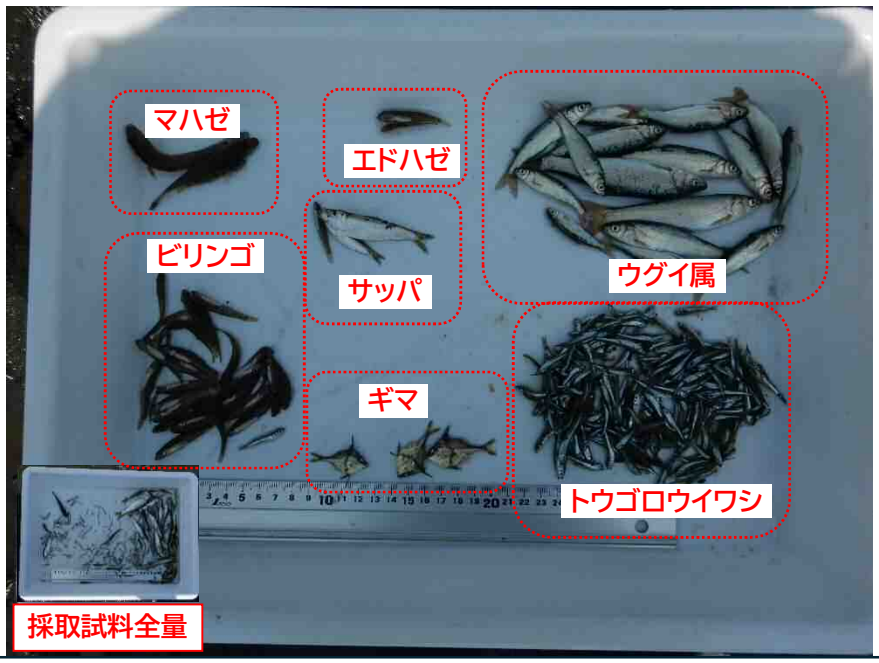
シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

アミ科

汽水域に生息するアミの仲間（エビとは異なる）。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。内湾や河口などの汽水域の干潟でみられる。

森ケ崎の鼻　採取試料



調査地点の様子

調査の様子

羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

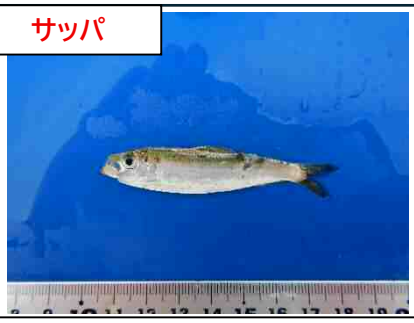
ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

エドハゼ

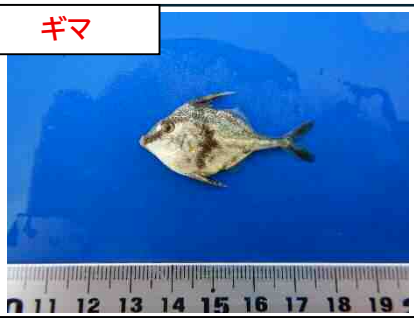
湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地引網で採集されにくい。

サッパ



東京湾では内湾を中心に全域で見られ、特に内湾の浅所や河川の河口域の砂泥底に群れで生息する。産卵期は主に夏。体長 7～8cm 前後で成熟する。

ギマ

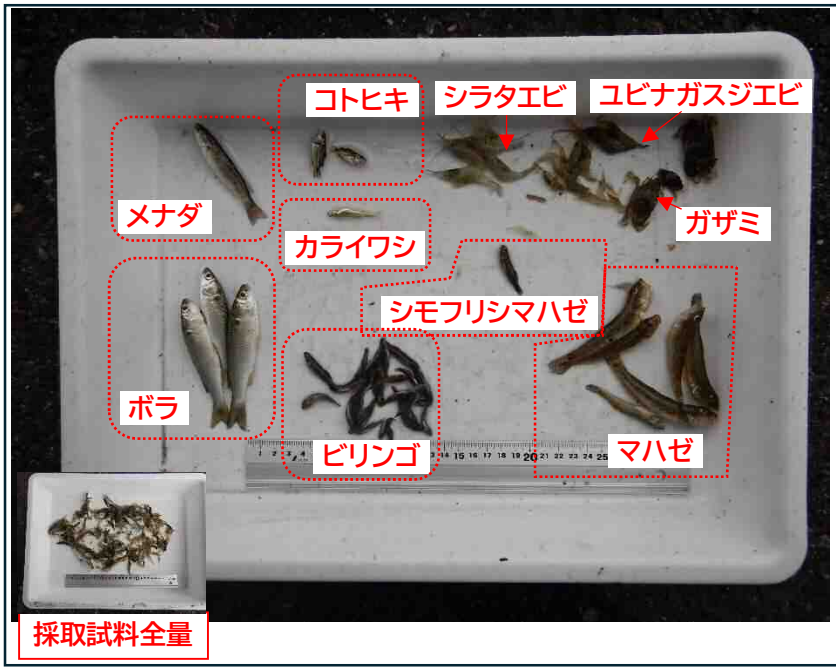


カワハギに近い仲間。腹にあるトゲは硬く鋭いため注意が必要。干潟域等の浅所で、夏から秋にかけ 1～5cm ほどの幼魚が出現する。平成 7 年頃から東京湾で確認されることが多くなった。

トウゴロウイワシ

イワシよりもボラに近い仲間。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸で普通に見られる。産卵期は夏で、秋にかけて仔魚が東京湾全域に出現する。

葛西人工渚　採取試料



調査地点の様子

調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

シモフリシマハゼ

河口汽水域等の砂泥底にあるカキ殻や石の間に棲む。産卵期は6、7 月頃。頭部の側面から腹側にかけて霜が降ったように白点が散っており、それが名前の由来となっている。

カライワシ

東京湾では内湾の干潟域や外湾の砂浜海岸で体長 3cm ほどの稚魚が 7～9 月に見られることが多い。成長すると体長 75cm ほどになる

コトヒキ

東京湾では、湾奥から外湾にかけての沿岸浅所や河口域で見られる。産卵期は５月～10 月。浮袋を使ってぐうぐうという音を出、これがコトヒキ(琴引)の名前の由来となっている。

メナダ

ボラに似ている。体長 70cm 程度になる。体型は紡錘型で、頭部は扁平する。尾びれはあまり湾入せず、眼球の周囲が赤くなる。河口域や干潟などに生息する。東京湾奥では感潮域に少数が回遊してくる。

ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。